

令和4年度総合型選抜2期

小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、下線部について、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

リベラルアーツの概念は古代ギリシャで生まれました。「自由になるための全人的技芸」という教育原理が起源です。人間が偏見や習慣を含めた呪縛から解放され、自分の意思で生きていくために、幅広く実践的な知識が必要とされたのです。

その後中世ヨーロッパに受け継がれ、「文法・論理・修辞・算術・幾何・天文・音楽」という「自由七科」として定義づけられました。そして、これがのちに神学・医学・法律といった専門教育ができたときに、それより前に学ぶべきものとなったのです。

現代のリベラルアーツはその流れを汲みながら、近代に発達した経済学や自然科学などが含められてさらに幅広くなっています。

近年リベラルアーツが重要視されるようになっていますが、グローバル化が進み、社会問題が複雑化する中で、問題解決には専門分野を超えた柔軟性が必要だと強く認識されているからでしょう。

専門分野の知識が豊富にあっても、その知識を生かすうえでは多角的な視点がなければ難しい。たとえば遺伝子工学を学んで、遺伝子操作の技術がわかったとしても、生命倫理とどう折り合いをつけるべきかという難しい問題に対処していくには歴史や宗教、哲学など幅広い知識が必要とされます。

ですから、ますます教養が重要とされている時代なのに、本を読んでいないというおかしなことが起こっているのです。

【齋藤孝『読書する人だけがたどり着ける場所』より抜粋】